秋田県仙北市立角館中学校　学校報

小倉山通信

学校教育目標「自立に向けた自律心、多様性の尊重、創造力に満ちた角館中学校」

令和５年
10月５日
発　行
【 No. 22 】

すずかけ祭間近！ 各部門準備、全校合唱練習がんばっています！

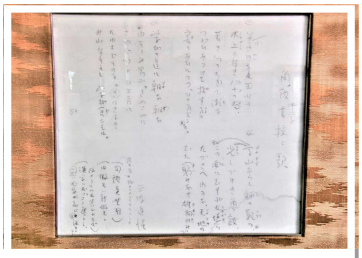
全校合唱で歌う**角館中学校の「校歌」について**･･･

角館中学校の校歌（作詞：三好達治、作曲：諸井三郎）は、昭和31年に完成しました。作詞の三好達治氏といえば、著名な詩人ですが、昭和29年当時の校長が新潮社を介して校歌の作詞を依頼したと記録されています。校長室には、当時の三好達治氏が本校校歌の構想を練るために田沢湖高原でたたずんでいる写真と作詞の直筆原稿が掲げられています。

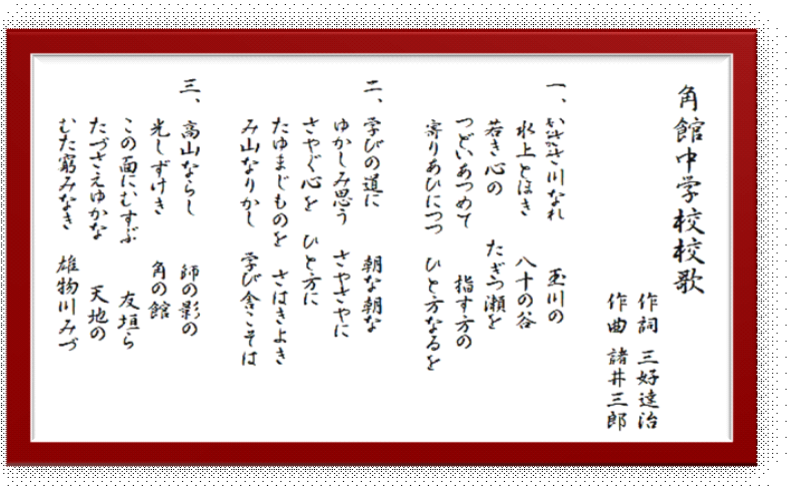
格調高い本校校歌ですが、三好達治氏がどんな思いを校歌の歌詞に込めたのか･･･その問いに挑戦した本校の先輩がいたので紹介します。

2014年（平成26年）の国民文化祭〈秋田の文学について知ろう〉小・中学生調べ学習コンクールで当時２年生の鈴木遥香さんが「角館中学校校歌と三好達治」というタイトルで最優秀賞を獲得しました。

遥香さんが調べた校歌の意味をその中から抜粋して紹介します。



直筆の歌詞原稿（上）
三好達治氏の写真（下）



角館中学校校歌

作詞　三好達治
作曲　諸井三郎

一、いさぎよ川なれ　玉川の
水上とほき　八十の谷
若き心の　たぎつ瀬を
つどいあつめて　指す方の
寄りあひにつつ　ひと方なるを

二、学びの道に　朝な朝な
ゆかしみ思う　さやさやに
さやぐ心を　ひと方に
たゆまじものを　さはきよき
み山なりかし　学び舎こそは

三、高山ならし　師の影の
光しずけき　角の館
この面にむすぶ　友垣ら
たづさえゆかな　天地の
むた窮みなき　雄物川みづ

一　小さな川である玉川の水上を求めて遠く遡ると、沢山の谷々があり、多くの谷川が瀬音もさわやかに流れている。
　この谷川の水が湧き上がり、さか巻き、また激しく交わり流れていくように、私たち角中生も燃えたぎる若い青春の心を寄せ合って、ひとつのものを目指して進んでいこう。

二　学ぶことを求めて、毎朝毎朝誘い合って集い合って登校して来る。
　学びたい心が、木の葉が触れあってざわめくように、生気みなぎり活気にあふれている。
　この学問を求め合う心を、ただそのことだけに向け、もち続けていこう。
　清らかな学び心が積み重なって、高い山のようにそびえ立っているところだから。

三　角館中学校は、はるかに仰ぎ見る高峰のように高く尊く清らかである。
　学問の道を説き教え、諭してくださる先生たちの恵みにつつまれて、友達と一緒に学ぶことの喜びや使命を深く考えてみよう。今こそ、互いに手を取り合い学問の道に励んでいこう。
　この悠久な天地とともに窮まることを知らずに、とうとうとして流れる雄物川のみずのように。

生徒の皆さんは、音楽の授業で校歌を習った時に、佐藤美紀先生からその歌詞のだいたいの意味を教わったと聞いています。私は今回、鈴木遥香さんの作品から校歌に込められたその意味を改めて確認することができ、大変うれしく感じています。

すずかけ祭では全校生徒の皆さんが、校歌に込められた作詞者の思いを感じ取りながら、誇り高い気持ちで歌ってほしいと思っています。保護者の皆さんにも作詞者の思いや校歌の意味を感じながら、聞いていただければ幸いです。